

平成31年度 中学校組織力向上のための実践研究事業実施計画書 (「タテ持ち」型)

1. 学校の概要 (4月8日現在)

ふりがな	しまんとしりつなかむらにちゅうがっこう				ふりがな	やまもと ひろいち		教員数
学校名	四万十市立中村西中学校				校長名	山本 博一		17
	第1学年	第2学年	第3学年	特別支援級	合計	ふりがな	とごう ゆか	
生徒数	50	56	38	6	150	主幹教諭名	渡会 由佳	
学級数	2	2	2	2	8			

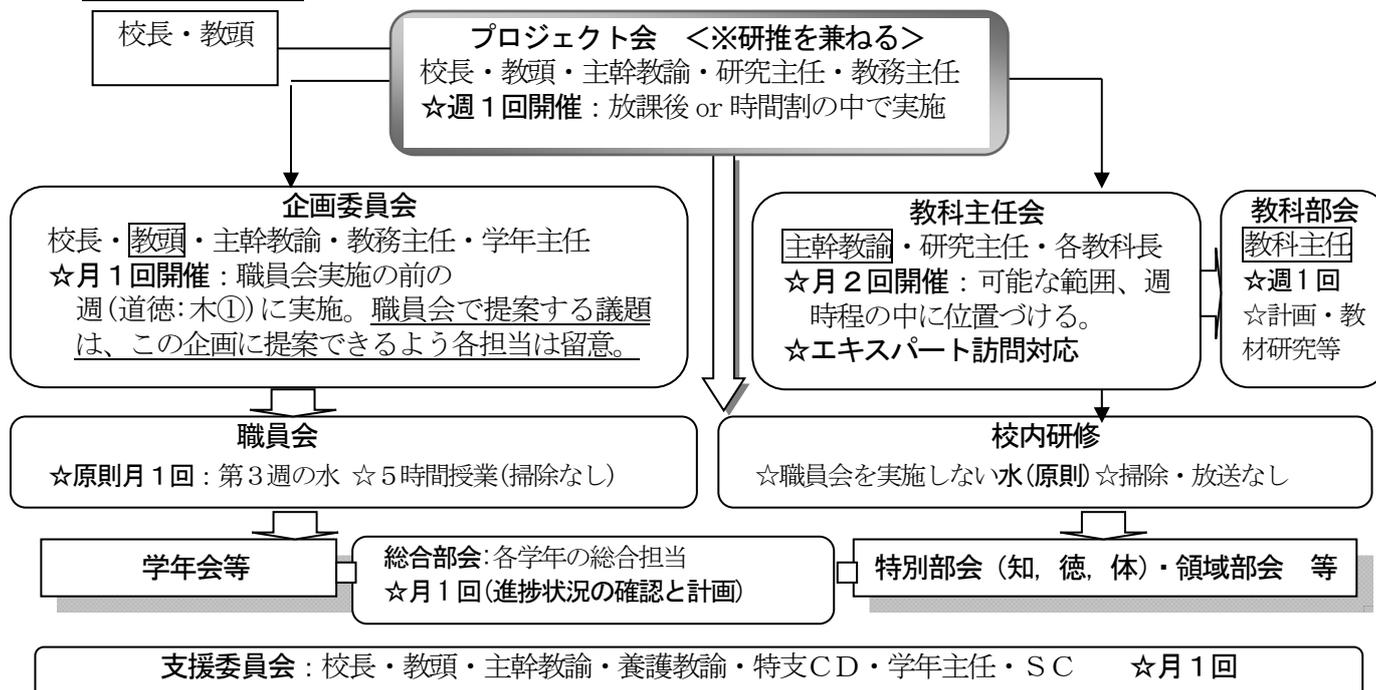
2. 教科の「タテ持ち」方式を実施する教科・教科主任名

国語	石川 真美	社会	岩井 知佐
数学	廣瀬 一輝	理科	渡会 由佳
英語	森原 朋生	保体	倉本 英樹
美音	岸本 和幸		

3. 研究テーマ

生徒が本気で取り組み、力をつける授業づくり
～対話や議論を生む課題設定の研究を通して～

4. 研究組織図



研究内容	研究方法
<p>○主幹教諭が中核となって、組織体制を整え、教員同士が学び合える仕組みを構築し、学び合う学校風土を高めていく。</p> <p>○効果的な教科会の実施により個々の教員の力量差を埋め、授業力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹教諭は管理職会での打ち合わせをもとに、週1回のプロジェクト会を開催する。そして、月2回の教科主任会を実施し、教科間のライン機能の強化を推進する。 ・5教科+技能教科のタテ持ちを行い、年間計画に基づいた教科主任会と教科会を確実に実施し、日常的なOJTを仕組むとともに、進捗管理を主幹教諭が行う。 ・主幹教諭は各主任との調整役となって、各学年、各学級に差が出ないように学力向上の取組を学校体制で推進できるよう調整を図る。 ・教科内で授業を見合う日常的なOJTの充実を図る。 ・西中スタンダードの実践と対話的な学びを生み出す授業実践に向け、年間6回の全校研（5教科+体育）を実施する。 ・研究主題に迫る授業づくりのために、「課題の設定」を工夫し、授業に対話や議論が生まれ、生徒の「思考力・判断力・表現力」が高まるように、教科を越えて研究を進める。 ・ノート指導を充実させ、書く活動と振り返りが充実するように教科間で統一指導を行う。 ・年間計画に基づいた教科会で、学力調査等の分析を行い授業改善への取組を活性化する。

6. 検証計画

指標（検証）の内容	達成目標	方法	時期
全国学力・学習状況調査	全国平均より各教科+3P	全国学力・学習状況調査	R元.4月
高知県学力定着調査	県平均より各教科+7P 全国平均より各教科+3P	高知県学力定着調査	R元.12月
授業改善プラン（到達状況）の結果	各教科の到達目標を上回る	授業改善プラン （各教科で定めた指標）	9月（中間検証） 2月（総括）
西中スタンダードに基づく授業づくり	教員の意識：授業の自己チェック表において達成率を平均で90%以上 生徒の意識：授業評価アンケートで肯定的評価80%以上	授業の自己チェック表（教師用） 授業評価アンケート（生徒用）	各月 1, 2学期
組織運営・授業力向上・校内研修の有用感	肯定的評価を85%以上	学校評価アンケート	R2.1月

7. 取組成果の普及計画

普及内容	方法	時期
全教員による授業研究レポートの作成	研究レポートをHPで公開	R2. 3月
年間6回の全校研における公開授業 (5教科+体育)	公開授業	4, 6, 9, 10, 11, 1月
学力向上に向けた授業改善の取組	オール四万十実践交流会	R2. 1月

8. 計画 (教科主任会・校内研修等)

	取組の内容	
	教科主任会・校内研修等	公開授業等
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3, 10, 24日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題、研究組織、研修計画、研究授業 ・授業スタンダード ・研究指定について説明 ・モデル授業 ○週1回 プロジェクト会 ● 3, 24日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教科主任会、教科会の持ち方について ・授業開きに向け共通確認 ・連休中の宿題について 	24日 モデル授業 (社会)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 15, 29日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果 (自校採点) 分析、学年部会 ○週1回 プロジェクト会 ● 15, 29日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会進捗状況について ・学力調査結果分析後の取り組みについて 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12, 26日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の協議の視点について ・指導案検討 ・研究授業、研究協議 ○週1回 プロジェクト会 ● 19, 26日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・評価、評定について ・夏休みの課題と補習について ・教科会進捗状況について ・期末テストの評価問題について 	12日 公開授業 (国語)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 17, 26, 31日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・学年会、領域部会、特別部会 ・1学期の総括 ○週1回 プロジェクト会 ● 10, 26日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会進捗状況について ・1学期の教科会の総括 ・事例集、シート類の活用について 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6, 21, 28日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の中間検証 ・オンデマンド研修 ・いじめ、虐待、危機管理研修 ○週1回 プロジェクト会 ● 6, 28日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の質と量の見直し ・2学期の教科会の計画 	

9月	<ul style="list-style-type: none"> ○11.25日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討 ・研究授業、研究協議 ○週1回 プロジェクト会 ●11.25日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査結果分析後の取り組み ・教科会進捗状況について 	25日 公開授業（理科）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○9,16,23日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討 ・研究授業 ○週1回 プロジェクト会 ●9,23日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会進捗状況について ・各教科のノート指導について 	23日 公開授業（数学）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○6,20日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討 ・研究授業、研究協議 ○週1回 プロジェクト会 ●6,27日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・期末テストの評価問題について ・県版学力調査に向けての取り組み ・教科会進捗状況について 	20日 公開授業（体育）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○18,25日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・領域部会、特別部会 ・2学期の総括 ・県版学力調査に向けての取り組み ○週1回 プロジェクト会 ●4,18日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会進捗状況について ・2学期の教科会の総括と3学期の計画 ・冬休みの課題と補習について 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○8,22日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討 ・研究授業、研究協議 ○週1回 プロジェクト会 ●8,22日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・3学期の計画確認 ・県版学力調査自校採点の分析 ・教科会進捗状況について 	22日 公開授業（英語）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○5,26日 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・研究レポートについて ・研究収録について ・学校経営計画の年度末検証 ・1年間の総括 ○週1回 プロジェクト会 ●5,9日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会進捗状況について ・1年間の教科会の反省 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○週1回 プロジェクト会 ●11日 教科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・春休みの課題について ・教科会進捗状況について 	

9. 加配教員の活用（別業とすること）

学校名 四万十市立中村西中学校

校長名 山本 博一 印

主幹教諭	氏名	渡会 由佳	在籍年数	4	時数	9
具体的 方策	<p>(1) 研究体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 主幹教諭は、管理職（校長・教頭）との打合せをもとに、プロジェクト会で組織力向上に向けた「タテ持ち」の取組を企画・提案し、チームとして学校の課題改善や学力向上を図る取組を推進する。 主幹教諭は、プロジェクト会を開催する。そして、教科主任会を統括し、各教科主任が行う業務を明確にしながら、各教科の授業力向上に向けた取組の推進にあたる。 主幹教諭は、教科主任からの報告をもとに教科会の進捗管理を行い、研究主任と連携して学力向上に向けた取組を進める。 主幹教諭は、OJTの取組を教科主任と連携して組織的に行う。 					
	<p>(2) 取組内容</p> <p>1. 組織力向上の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 主幹教諭は、週1回の校長・教頭との打合せを通じて指導助言を受け、提案内容を整理してプロジェクト会におろし、研究の方向性を明確にする。 主幹教諭は、研究主任と連携を図り、年間計画に基づいた教科主任会と教科会の実施を推進するとともに、取組状況の進捗管理を行う。 主幹教諭は、各教科の取組の進捗状況を把握しながら、必要に応じて指導主事を招聘することを校長に打診し、組織としての取組となるよう調整を図る。 主幹教諭は、研究主題に基づき、各教科会で「課題設定」の工夫・改善について継続的に研究していくための方策を教科主任会で提案し、実践の積み上げを記録として残していく。（教科会ファイル等の活用） 主幹教諭は、学期に1回、授業参観週間を設定して、若年教員がベテラン教員の授業を見て学んだり、教科の壁を越えて指導技術について学び合ったりする機会を設定し、全教員の指導力向上に努める。 文部科学省や高知県教育委員会が作成した事例集や学習シート類の活用状況を、教科主任会で確認するとともに、学力向上に向けた有効な活用方法について話し合わせ、教科主任の意識向上を図る。 <p>2. 授業力向上の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 主幹教諭は、研究主題に基づき、各教科会で工夫・改善した「課題設定」について単元毎に記録していくよう教科主任に依頼し、対話の様子やノートの記述とともにファイリングできる環境を整備する。 主幹教諭は、教科会に参加し、板書計画や授業構想、「めあて」や「まとめ」、「振り返り」の充実について、生徒のノートをもとに協議を深め、各教科の思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを推進する。 各種学力調査に関して、教科会で分析や課題改善の方策を協議し、短期的な授業での改善策と長期的な学校としての取組を明確にし、教科主任会を通じてその取組の実施状況を確認する。 					

	<p>④主幹教諭は、生徒が見通しをもって学習できるように、各教科主任と連携を図り、月別の学習計画表を作成・配付する。家庭学習については、長期休業中の宿題を含め、必要に応じて質と量を改善しながら取組を進める。</p> <p>⑤主幹教諭は週2回以上授業参観を行い、本校の授業スタンダードの実現状況を把握する。また、毎月実施する「授業の自己チェック表（学校作成）」の集計結果を研究主任と連携して確認し、教員が主体的かつ継続的に授業力向上に取り組めるよう、実際の授業の様子と重ねた具体的な指導助言を行う。</p> <p>⑥主幹教諭は、取組の推進に関わって研究主任との連携に重点を置き、授業の質的向上を目指す取組を推進する。学年主任には、学年として組織的に対応してほしいことを周知し、各学年の取組に差が出ないように調整する。特に家庭学習の取組や帯タイムの取組については、学校体制で推進できるよう、学年間の調整を図る。</p>						
<p>期待する 成果 ・ 検証方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度高知県学力定着状況調査において、県平均+7ポイント以上、全国平均+3ポイント以上 2. 令和2年度全国学力・学習状況調査において、国語、数学、英語ともに全国平均+3ポイント以上 3. 令和元年度授業改善プランにおける各教科の到達目標を上回る。 4. 月毎の授業の自己チェック表の達成率（平均）90%以上 5. 学期毎の授業評価アンケートで、肯定的評価を80%以上 6. 学校評価アンケートにおいて、次の項目の肯定的評価を85%以上とする。 <ol style="list-style-type: none"> ①「学校は組織として機能している」（組織運営の有用感） ②「教科部会では教材研究を深めることができ、自己のわかる授業づくりにつながっている」（授業力向上を目指した教科会の有用感） ③「校内研究は効果的で、授業改善の取組に結びついている」（校内研修の有用感） <p>【検証方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>○高知県学力定着状況調査</td> <td>○全国学力・学習状況調査</td> <td>○授業改善プラン</td> </tr> <tr> <td>○授業の自己チェック表</td> <td>○授業評価アンケート</td> <td>○学校評価アンケート</td> </tr> </table>	○高知県学力定着状況調査	○全国学力・学習状況調査	○授業改善プラン	○授業の自己チェック表	○授業評価アンケート	○学校評価アンケート
○高知県学力定着状況調査	○全国学力・学習状況調査	○授業改善プラン					
○授業の自己チェック表	○授業評価アンケート	○学校評価アンケート					